

米山梅吉記念館を訪ねて 米山奨学生 レクアンズウイさん 高山和宏 米山奨学委員長

皆さま、こんにちは。米山記念奨学生のレクアンズウイと申します。本日は、先月訪問した静岡県の米山梅吉記念館について報告させていただきたいと思っております。

まず、当日清野さんと新千歳空港から羽田空港へ向かい、その後新幹線で三島駅に到着しました。私は実は今回、日本に来て初めて北海道を離れ、初めて新幹線に乗りました。この写真は三島駅から見える富士山で、きれいですね。三島駅に着いた後、駅前のお土産屋さんでは、「お土産」という言葉がさまざまな外国語で書かれている看板を見て、この辺には外国人観光客が多い地域かなと感じました。また、一番右側にお土産という意味のベトナム語もあってちょっとびっくりして、親近感もありました。この建物の後ろにうなぎやさんがあって、うなぎはとても美味しかったです。みなさま、今度もし訪問する機会がある場合はぜひ召し上がってください。

その後、皆で米山梅吉記念館に到着しました。その時、札幌はまだ涼しかったけれど、日頃の行いがいいからか、天気は夏らしくとてもよく、記念館もとてもきれいで、良い第一印象を受けました。

米山梅吉記念館について

これは米山記念館の簡単な見取り図です。中央には「米山記念館新館」があり、その右上には「米山文庫子ども図書館」があって、左側と下側には駐車場があり、右側には道路が通っていて、記念館は比較的広く静かな場所に建てられています。

米山梅吉記念館は、最初に一階で記念館の歴史だけではなく、記念館の運営についても説明を受けました。また、私が特に印象に残ったのは、米山梅吉が残した「Keep your name clean」という言葉です。この言葉には、自分の名誉や信用を大切に、誠実に生きることの重要性が込められていると感じました。庭には記念の植樹もあり、とても落ち着いた雰囲気でした。

次に二階へ移動して、二階では最初にAI映像を見ました。この映像は、去年北海道大学の学生がAIを活用して制作したものだそうです。映像では、米山梅吉の人生や考え方について分かりやすく紹介されています。館内に入って、全体的に落ち着いた雰囲気があって、歴史を感じられる展示空間になりました。展示室には、米山梅吉の写真や資料、実際に使われていた持ち物、本などが丁寧に展示されていて、静かに見学できる環境だと思いました。

次は米山梅吉の子ども時代から晩年までの人生が年代ごとに紹介されて、多くの展示を見ることができたので、これから記念館訪問を通して、米山梅吉のことに学んだことを簡単に発表させていただきたいと思っております。

少年時代

まず、米山梅吉の少年時代についてです。米山梅吉は1868年に生まれました。幼いころに父を亡くし、その後、母の故郷である三島へ移り住みました。学生時代はとても優秀でした。特に文章を書く力や演説の力に優れていたそうです。展示では、若いころの米山梅吉が「言論人」、つまり自分の考えを社会に伝える人になりたいと考えていたことが紹介されています。

苦学を重ねてアメリカへ

次に、上京して苦学した時代からアメリカ留学についてです。16歳の時、米山梅吉はもっと広い世界で学びたいという思いから、中学校を退学して東京へ向かいました。当時としては、とても勇気のある決断だったと思います。その後、20歳で正式に米山家の養子となり、アメリカへ留学しました。当時は海外へ行くこと自体がとても珍しい時代でしたが、米山梅吉は自分で学費を稼ぎながら勉強を続けました。米山梅吉はこの三つの大学で学び、8年間アメリカで生活しました。この長い留学経験が、後の国際的な考え方やロータリー活動につながったのではないかと思います。

海外で学んだ知識を日本社会の発展のために活かした米山梅吉の姿

アメリカ留学から帰国した後、梅吉は最初ジャーナリストを目指していました。そして、ペリーや日本の開国について書いた『提督彼理(ペリー)』という本を出版しました。しかし、明治29年(1896年)に米山はと結婚したことをきっかけに、人生の方向を変え、実業界に入ることを決意しました。その後、三井銀行に入社し、実業家としての第一歩を踏み出しました。優秀な人物として認められ、欧米へ銀行業務視察にも派遣されました。

経済発展に大きく貢献した人物

米山梅吉は三井銀行に入社してから、非常に早いスピードで昇進を続けました。42歳で役員となり、日本経済界を代表する人物の一人として活躍するようになりました。銀行業務だけではなく、日本全体の経済の流れを見通す力も高く評価されていました。その後、日本で最初の信託会社である「三井信託株式会社」を設立し、社長に就任しました。写真は、52歳の時にアメリカのウェスレアン大学から「Master of Arts(文学修士)」の学位を授与された時のものです。

教育への貢献

米山梅吉は『新隠居論』(しんいんきょろん)という本を書き、社会奉仕の大切さについて述べました。その後、ロータリーと出会い、その理念に深く共感しました。そして、日本にロータリークラブを設立し、日本のロータリー活動の発展に大きく貢献しました。晩年には、社会福祉や学校教育などの分野にも力を注ぎました。梅吉は、「成功した後は社会に恩返しをするべきだ」という考えを持っていたと言われています。

ロータリーとの関わり

ロータリーは1905年にシカゴで ポール・ハリス によって設立されました。日本では1920年に東京ロータリークラブが設立され、米山梅吉はその中心人物の一人でした。また、展示室には1901年ごろから2020年ごろまでのロータリーの歴史も2021年から2040年の理念も展示されています。

次に、この富士山の写真は記念館の屋上から見えるものです。最初にも紹介しましたが、この右側の写真は米山文庫子ども図書館です。これは米山梅吉記念館のホームページの情報なのですが、「悪化の一步を辿る社会状況の中、せめて心の栄養だけは枯渇させまいとの思い」という米山梅吉の考えは印象に残りました。米山梅吉記念館を離れる前に、皆が米山梅吉のお墓にも訪問しました。

三島・沼津観光

記念館を離れた後、三島大社へ行きました。一番驚いたのは、天然記念物に指定されている大きな木でした。また、お茶と団子もとても美味しかったです。次に、三島スカイウォークへ行きました。そこにはレストランだけではなく、さまざまなアクティビティもあり、観光客でにぎわっていました。その後、ホテルにチェックインし、夜の懇親会は「松韻」というレストランでした。美味しい料理だけではなく、いろいろなお話を聞くことができ、とても楽しかったです。

翌日はホテルをチェックアウトした後、トヨタ・ウーブン・シティの見学時間まで少し時間があつたため、周辺を散歩しました。その後、沼津魚市場へ行きました。そこには多くのお店があり、「沼津港深海水族館」もありました。三島を離れる前には、お土産屋さんへ行き、駅のレストランでアジの干物定食を食べました。

札幌へ帰る前には、現在アルバイトの東京在住のハンティングワールドのマネージャーの方に会いに行きました。今年の2月、私がベトナムへ帰ったときに、彼は札幌に来たけど会えなかったので、今回話し合いに行きました。その後、皇居の周辺を散歩し、東京駅で解散しました。

最後に、米山記念奨学生である私としては、今回の米山梅吉記念館訪問は貴重な体験だと思います。米山梅吉のことをもっと理解できるようになって、自分の成功で社会に貢献するのも大切だし、これからももっと頑張って少しでもさらに成長して少しでも社会に貢献するようになる存在を目指し、精いっぱい頑張っていきたいと思っております。

今回の米山梅吉訪問は清野さんが朝早くわざわざ送ってきて、初めて北海道を離れたけれど、全然心配しなくて、本当にありがとうございます。また、

カウンセラーの高山さんといつも優しくお世話になってくださった本当にありがとうございます。最後に、札幌東ロータリークラブの皆様がいなければ、米山梅吉記念館訪問に行けないと思いました。誠に感謝申し上げます。来年の3月までもどうぞよろしくお願い申し上げます。もう時間になりましたので、今日の発表はこれで終わります。ご清聴ありがとうございます。



■本日のロータリーソング

君が代、四つのテスト

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長:フランチェスコ・アレツツ

よいことのために
手を取りあおう